



シンポジウムの様子

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：450千円

シンポジウム「フェアトレードとエシカル消費は社会を変えられるか」

目的・趣旨

浜松で展開されている、フェアトレードをはじめとする、「エシカル」な商品、特に食品を扱う業者関係者の将来のビジネスのあり方を考える場とし、関係者が交流できるような機会にすることが目的である。

日時・場所

平成28年5月2日から平成29年2月28日
 ≪はままつエシカルビジネス会議2016≫ 平成28年12月10日

体制

(実施代表者) 文化政策学部 国際文化学科 教授 下澤嶽

共催・後援等

(共催) はままつフェアトレードタウン
 (後援) 浜松市、(公財)浜松国際交流協会

内容

地元のフェアトレードグループである「はままつフェアトレードタウン・ネットワーク」と共同で12月10日(土) 13時半から18時の間、アクトシティ浜松コンgresセンターで実施した。当日は、消費者の立場、経営者の立場、学術的な関心をもった人など多様な参加となった。2015年度に行ったイギリスと国内のフェアトレード調査の報告を行った上で、経験者による「すいーとまむの15年から学ぶ」「未来型農業のひかり農園」「カフェ立ち上げ物語を聞く」「海外の現場で商品を生み出す」といった4つのテーマのセッションを設けた。



フェアトレード商品

結果・成果

会場の参加者からは「エシカルの意味がよくわかった」「昔は不可能だったものが可能になることがわかった」「こうした意識が広がることを望みたい」といった声が聴かれた。事業については、企画段階は浜松市民と行ったが、当日は本学学生2名がボランティアとして、会場運営にあたり、新聞社2社からの取材を受けた。



パンフレット